

会議要録

会 議 名	第3回港区小中学生海外派遣事業業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和6年12月25日（水曜日） 午前9時から正午まで
開 催 場 所	港区立教育センター 研修室1
委 員	【出席者】 秋田博昭、金森強、粕谷恭子、吉野達雄、大久保和彦
事 務 局	清水浩和（教育指導担当課長）、下橋良平（統括指導主事）、 三戸大輔、花井拓也（指導主事）、鈴木友里江（教職員人事係）、 澤木俊宏、堀内遥、小林あかり（教育支援係）
会 議 次 第	1 開会 2 二次審査実施概要について 3 プレゼンテーション及びヒアリングの実施について 4 二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 閉会
配 付 資 料	【配付資料】 資料1 二次審査実施概要 資料2 二次審査採点基準表（3事業者分） 資料3 一次審査・二次審査集計結果（※採点終了後に配付） 資料4 第2回港区小中学生海外派遣事業業務委託事業候補者 選考委員会会議要録（案） 参考資料1 一次審査集計結果 参考資料2 港区小中学生海外派遣事業業務委託事業候補者選考基 準 参考資料3 仕様書

会議の結果及び主要な発言

事務局	1 開会 2 二次審査実施概要について (資料1・2の説明)
B事業者	3 プレゼンテーション及びヒアリングの実施について 【B事業者】 <プレゼンテーション> (企画提案書の説明)
B委員	<ヒアリング> 3点質問がある。1点目は海外派遣を通じての子どもたちの達成目標について、2点目は今回の提案内容の一番のアピールポイントについて、3点目はホームシックが起こった際の対応方法について教えてもらいたい。
B事業者	1点目について、国際理解を得るために何よりも大事なのはコミュニケーション能力であり、どんな場合にも対応できる人に成長してほしいと考えている。2点目について、一番のアピールポイントは児童・生徒のマインドセットである。3点目について、ホームシックは日本にいる保護者等と繋がることによって引き起こされると考えている。家族の一員としてホストファミリーと話せるように事前研修のなかで、携帯電話の使用を控えることを児童・生徒や保護者に向けて伝えていく。また、万が一のときはホームシックに対応できる体制も整え、ホームステイ先での悩みについて聞き取りも行っていく。
C委員	2点質問がある。1点目は、小学生と中学生のプログラムについて詳しく教えてほしい。2点目は、中学生の派遣先がパスであるが、子どもたちの体力面を踏まえ、なぜパスを選択したのかについてお尋ねしたい。
B事業者	1点目のプログラムについては、目標であるコミュニケーション能力を身に付けるために、現地の大学生のグループリーダーと一緒に学習していく。コミュニケーションで一番大事なのは1対1で話す機会であると考えするため、対話を大事にしながらプログラムを進めていきたい。2点目のパスの理由は、港区の受入れ実績が多く、ノウハウが蓄積されているためである。中学生なら長時間のフライトや乗り継ぎがあっても耐えられる体力ではないかと考えた。
E委員	2点質問がある。1点目は、ホストファミリーとの生活でマインドを作るためにどのようなことをするのか。2点目は、SDGsやSTEM教育の活動については振り返り学習を行わなければ児童・生徒の気付きや学びに活かすことができないと考えているが、その点はどのように考えているか。
B事業者	1点目は、事前に児童・生徒を1人にしないよう英語で積極的に話しかけてもらいたい等の事前説明をホストファミリー先に丁寧に行い、万全の体

	制で児童・生徒を受け入れるようにする。2点目は、提案書にはSTEM体験の例としてペットボトルのろ過装置の制作について記載したが、なぜろ過装置なのかという部分について、日本とオーストラリアでは水の大切さが異なるため、その部分を事前研修等で理解してもらってから体験をしてもらう予定である。
C事業者	【C事業者】 <プレゼンテーション> （企画提案書の説明）
B委員	<ヒアリング> 3点質問がある。1点目は海外派遣を通じての子どもたちの達成目標について、2点目は今回の提案内容の一番のアピールポイントについて、3点目はホームシックが起こった際の対応方法について教えてもらいたい。
C事業者	1点目は、小学生は英語や国際理解に興味関心を持つ機会を作りたいと考えている。中学生はさらに広い視野で国際理解を踏まえ、将来について考える事業にしたいと考えている。2点目は、小学生についてはパスならではの観光地をまわり異文化理解、国際理解を深める部分である。中学生については、現地学生と交流して英語力や国際理解のきっかけ作りを行う一般コースと大学にも訪問しながら将来像を具現化していけるチャレンジコースの二手に分かれる部分である。3点目のホームシックは、基本的にホストファミリーから現地会社と添乗員に連絡が入るため、そこで児童・生徒と話をして状況を確認し、必要に応じて保護者に連絡を取る必要があるのか引率教員と一緒に確認する。また、毎朝ホームステイ先から学校に登校した際に添乗員が児童・生徒の表情や変わった様子がないか確認し、ホストファミリーにもヒアリングをしてフォローしたいと考えている。
C委員	2点質問がある。1点目は、提案内容のプログラムについて素晴らしいと感じたが、プログラムのレベルが高く、児童・生徒との実態と少し離れていないかが気になったのでどうなのか教えてほしい。2点目は、オーストラリアには様々な場所がある中で、パスは児童・生徒の体力面を考えたときに乗り換えや長時間のフライトの点から厳しいのではと感じるが、パスを選んだ理由について改めて説明してもらいたい。
C事業者	1点目の児童・生徒のレベルと提案のプログラムがあっているかどうかについては、事前学習時にフォローアップしたいと考えている。英語が苦手な子どもについても、五感を使って一緒に体験するプログラムを多く取り入れた事前研修を行うことで、国際理解や異文化理解が身に着くため安心してほしい。2点目のパスを選んだ理由について、長時間飛行機に乗ることで体調が悪くなってしまう児童・生徒については、乗り継ぎ先の空港で歩いたり伸びをしたりして乗りなおすことで改善されると考えている。他の都市も検討したが、安全性や確実性からパスを提案した。
A委員	宿泊予定のホテル周辺の治安状況や宿泊場所から見学学習の予定地までの距離についてはいかがか。
C事業者	宿泊先のホテル回りの治安については、市内を予定しているため、明るく

	公園等もあり安全である。宿泊場所から見学学習の予定地までは、車で移動する場合は30分程度である。また、ホームステイ先から学校までも、基本的に車で10分から15分程度であり児童・生徒の体の負担にはならないと考えている。
E 委員	国際理解と異文化理解の違いについて教えていただきたい。
C 事業者	生活の違いや食事の違い等を学ぶのが異文化理解である。国際理解は広く捉えて学習の中身や姿勢の違いを理解するイメージである。
D 事業者	【D事業者】 <プレゼンテーション> （企画提案書の説明）
B 委員	<ヒアリング> 3点質問がある。1点目は海外派遣を通じての子どもたちの達成目標について、2点目は今回の提案内容の一番のアピールポイントについて、3点目はホームシックが起こった際の対応方法について教えてもらいたい。
D 事業者	1点目は、ホームステイや見学学習の体験を通して、児童・生徒が英語のアウトプットをできるようになることを達成目標としている。2点目のアピールポイントについては、実際に現地を確認しており、多様なプログラムや見学学習を提案している部分である。3点目のホームシックの対応については、コーディネーター等が児童・生徒の精神面の確認をして、どうしても厳しい場合にはホームステイ先からホテルに変更するといった対応も行う。
C 委員	2点質問がある。1点目、ホームステイの人数については児童・生徒の実態を見ながら変更できるという理解で良いか。2点目、今回の海外派遣を通して小学生と中学生でそれぞれどのようなことを学ばせたいのか。
D 事業者	1点目のホームステイの人数については、ご認識のとおりである。2点目については、小学生は例えばローンパインコアラ保護区を見学学習に入れる等をしており、コミュニケーションというよりは、オーストラリアを体感してもらいたいと考えている。中学生については、ロットネスト島に行き再生エネルギーの取組について日本との対比をするプログラムを用意しており、英語を使った問題解決の能力を高めてほしいと考えている。
A 委員	宿泊予定のホテル周辺の治安状況や宿泊場所から見学学習の予定地までの距離についてはいかがか。
D 事業者	ブリスベンについては、ホテルの目の前に病院があり、緊急対応も可能である。また、宿泊場所からどの見学学習の場所までも徒歩1時間圏内である。パースのホテルは中心部を予定しており、移動もしやすく、また治安もよい。
事務局	4 二次審査結果及び事業候補者の選定について （資料3を配付して採点の集計結果を説明）

A委員	【二次審査の講評（B事業者）】 小学生コースのブリスベンはやはり新しい試みと感じた。
E委員	ホストファミリーとの生活でマインドを作るためにどのようなことをするのかについては、質問したときの答えが予想と違ったため困惑した部分があった。
D委員	プレゼンテーションは聞きごたえがある内容であり、良かったと思う。
C委員	こちらが聞きたいポイントを押さえたプレゼンテーションであり、一定のレベルは達していた。
B委員	提案は一定のレベルは超えていたように感じる。また、アピールポイントのマインドセットと関連していたが、事前研修に力をいれていたことが伝わり好感触であった。
A委員	【二次審査の講評（C事業者）】 現地校から移動距離の少ないホストファミリーの選定やホームステイのマッチングの点、ホームシックについてのフォローは良かったと思う。
E委員	二次審査の採点項目に基づいて質問をしたが、回答からは評価することが難しかった。
D委員	理念について説明できており評価した。しかしながら、実際に実施できるかどうかについては分からないとも思った。
C委員	プログラムの内容は素晴らしいと思ったが、児童・生徒の実態に沿っているかどうかについて悩んだ。児童の負担が少ない方が良いのかなとも感じた。
B委員	実績が豊富で、体制もよいが、児童・生徒の見学学習の提案としてはB事業者やD事業者の方が主体的に体験できるものが多いのではとも思った。
A委員	【二次審査の講評（D事業者）】 旅程全体の説明が分かりやすく細かったので想定しやすかった。見学学習についても分かりやすくテーマ性がある部分が評価できると思った。
E委員	具体的な提案で事業の実施について安心感がもてた。
D委員	水準以上の十分な内容であった。
C委員	行程の説明が多かったが、細かく決まっており、区と協力すればブラッシュアップの可能性があると感じた。
B委員	見学学習が面白そうであり、語学以外の国際理解についても深めることができると感じた。ホームステイの人数も柔軟に対応でき、区側のニーズに応じることができると思う。

事務局	【事業候補者の決定】 （再集計結果の説明）
委員長	二次審査の評価点数については、この点数で決定してよろしいか。 （異議なし）
委員長	それでは、この点数のとおり決定する。この点数の結果をもって、当委員会として、最も得点の高いD事業者を事業候補者として決定してよろしいか。 （異議なし）
委員長	それでは、そのとおりに決定する。 → D事業者を事業候補者とすることを決定 5 閉会